

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) サブクエスト



黒衣森編

東部森林

ギルドリーヴ開放「ハウソーン家の山寨」

キナ・リエーガ： 仕事をお探しですか？ 私はキナ・リエーガ。冒険者ギルドの一員です。
こちらでは、魔物討伐や物資の調達など「ハウソーン家の山寨」周辺から寄せられた依頼をご紹介します。
ただし……危険を伴う内容のものも多いので、本格的にお仕事を依頼する前に、あなたの実力を確かめさせていただきたいのです。
私に取り扱っている依頼をひとつお見せします。まずは、このリーヴをごなしていただけますか？
ありがとうございます。シルフは「てまねき」してあげれば誘導することができますよ。よろしくお願いします。

キナ・リエーガ： 依頼したリーヴを達成していただけたようですね。では、報酬をお受け取りください。
あなたの働きぶり、素晴らしいものでした。これなら、安心して仕事をお任せできそうです。
その腕っ節、頼りにしていますよ！

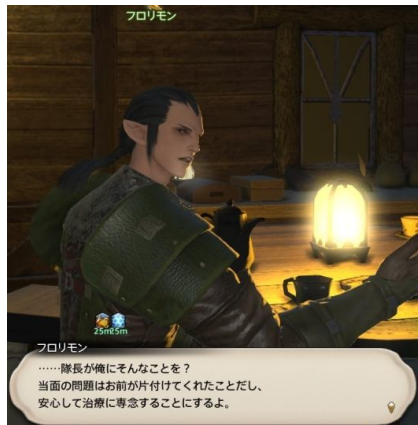
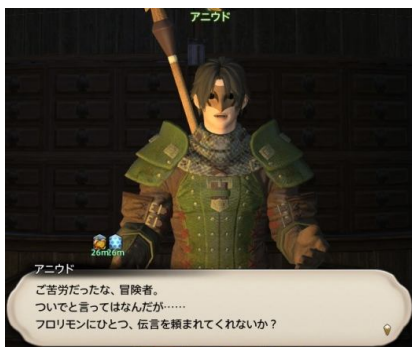


負傷兵の憂慮

フロリモン： 冒険者か、それなりに戦えるようだな。俺に変わって魔物駆除に参加してくれないか？
俺はこのとおり、怪我をしていて戦力にならんのだ。詳しいことは「ジョスラン監視哨」の「**アニウド**」隊長に聞いてくれ。

アニウド： 何の用だ？ ……そうか、フロリモンに頼まれて、あいつの代わりに魔物駆除に参加するというのだな。
君の仕事は「茨の森」に行き、「ブラックバット」を駆除すること。6体ほど倒してもらえば十分だ。

アニウド： ご苦労だったな。冒険者。ついではなだが…… **フロリモン**にひとつ、伝言を頼まれてくれないか？
心配なくていいから、ちゃんと休めと伝えてくれ。監視哨のことを気にしてばかりでは、治るものお治らんだろう。

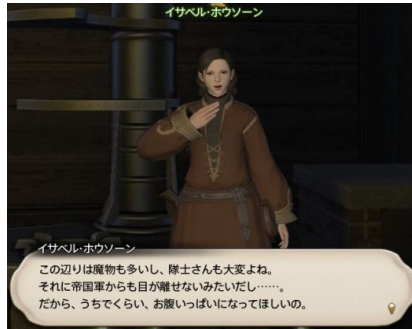


フロリモン： ……隊長がおれにそんなことを？ 当面の問題はお前が片付けてくれたことだし、安心して治療に専念することにするよ。

娘の献身

イサベル・ホウソーン：あなた、冒険者さん？ 冒険者だったお父さんと雰囲気似てるから、すぐにわかったわ。
この家で休憩する隊士さんのために私が料理を作って、振る舞っているんだけど、材料のお肉が少なくなってきてしまったの。
私の代わりに食を仕掛けてきてくれない？ 材料が3個「狩猟用道具箱」の中に入ってるから、
茨の森に行って、組み立ててくれればいいわ。

イサベル・ホウソーン：ありがとう、助かったわ。しばらくしたら、獣が罠にかかっていないか鬼哭隊の隊士さんに様子を見にってもらうわね。
私は、冒険者さんや隊士さんのように戦って魔物を退治することはできないけど、
代わりに、料理を作って励ますことはできるわ。
この辺りは魔物も多いし、隊士さんも大変よね。それに帝国軍からも目が離せないみたいだし……。
だから、うちでくらい、お腹いっぱいになってほしいの。



監視任務の代行

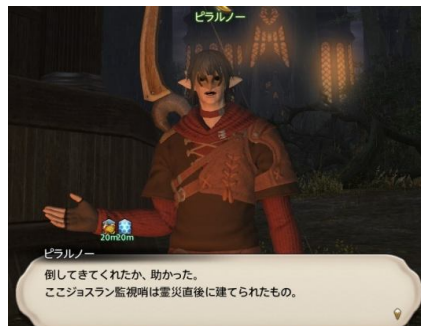
ビラルノー：……ふむ、なかなか腕が立つようだね。このジョスラン監視哨の警備に協力しないか。
見張りの人員が足りず、困っているのだ。
見張りをする場所は3箇所ある。目印として「双蛇党の軍旗」が立ててあるからそこへ行き、しばらくの間、周囲を見張ってくれ。

ビラルノー：ご苦労だったな。……なに、見張りの最中に魔物から襲われた？ おかしいな、そこまで危険な場所ではないのだが。
魔物がまた増えているのかもしれない……。とにかくご苦労だった、冒険者よ。

茨の森の脅威

ビラルノー：その冒険者、ひとつ雑用を引き受けてくれないか。「茨の森」の「ワイルドボア」の駆除だ。
そうだな、5体ほどで十分だろう。
奴らは、増えすぎると森の外に出て、シルフ族や旅人に襲いかかってくるから危険なのだ。ではよろしく頼んだぞ。

ビラルノー：倒してきてくれたか、助かった。ここジョスラン監視哨は震災直後に建てられたもの。
もともと建設計画はあったのだが、ホウソーン家の山寨に新型エーテライトが設置され、
流通や軍事の要として、重要な拠点となったのだ。
監視哨の由来となった、鬼哭隊の英雄「ジョスラン」殿の名前に恥じぬよう、立派にこの監視哨を守っていかなくては。

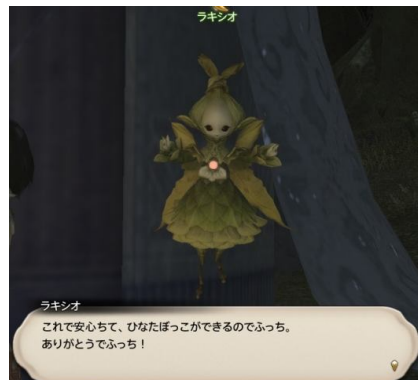


ひねくれシルフのいたずら三昧

- ラキシオ**：うちに挨拶して回ってるのはお前ふっち？ けっこ踊りが上手だけど、それくらいじゃ
アタビは仲良くしてあげないふっち。
仲良くしたいなら、アタビの言うこときくふっち！ まずは背中がかゆいから掻いてほしいでふっち。
ちょっと「つつく」くらいで丁度いいふっち。
- ラキシオ**：ひっかかったでふっち！ アタビに触ったお前には、姿が緑になる魔法をかけたふっち！
よく「自分を見る」でふっち。緑のマヌケな姿になってるでふっち。
- ラキシオ**：緑の魔法は、よくきいてるでふっち。よく「自分を見る」でふっち。
あははは、騙されたふっち。緑の魔法はウソふっち！
アタビは、かなりウソがうまいでふっち？ 「称賛する」といいふっちよ。
- ラキシオ**：すごいでふっち？ アタビを「称賛する」でふっち。
そうでふっち。アタビはすごいのでふっち。
お前はもちろいのでふっち。しょうがないから仲良くちてやるでふっち！

チツガを懲らしめて

- ラキシオ**：わたび、困ってるでふっち！ 助けてくれてもいいのでふっちよ！
お外でひなたぼっこしてると、わたびらの匂いを「ごはん」と勘違いした「バジング・チツガ」が襲ってくるのでふっち。
森でひなたぼっこしてる子のそばで待てば、きっとバジング・チツガは現れるのでふっち。
そこをキューって、こらしめてほちいのでふっち！
- ラキシオ**：わたびらは、お外でおひさまに当たらないと元気がなくなって病気になるっちゃうのでふっち。
これで安心ちて、ひなたぼっこができるのでふっち。ありがとうでふっち！



猪突猛進

- アミシア**：ぶるぶるぶる……お外にいたら、こわーいイノシシたちが、追っかけてきたのでふっち。
まだこの近くを、ウロウロしてると思うふっち。
イノシシの縄張りにある怪しい茂みを探して、やっつけてきてほちいのでふっち。ぶるぶるぶる……。
- アミシア**：悪い子イノシシを倒ちたのでふっち？ これでまた、お外でひなたぼっこできるふっち。
ありがとうなのでふっち！



糸は森の中

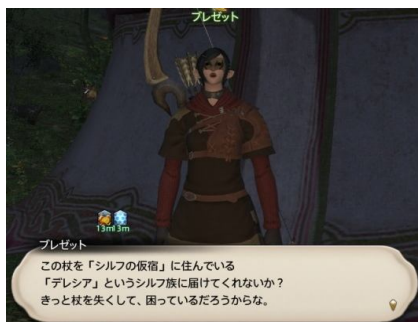
アミシア：あのね、もうひとつお願いがあるふっち。さっき逃げるときに縫い物用の糸を落とちてきちゃったのでふっち。「絹糸」が3つ、「茨の森」にあるはずでふっち。探してきてほしいのでふっち。

アミシア：お願いちものは見つかったでふっち？ ……糸がないと、とっても困るのでふっち。
この糸なのでふっち！ 糸がないとお裁縫ができないのでふっち。探ちてきてくれて、ありがとでふっち！

屋根で遊ぶ小さな影

プレゼット：深夜、森の見回りをしていた際に、屋根の上で子どもらしき影が遊んでいるのをみかけてな。
だが、注意しようと思った時には、そこには誰の姿もなかった。
私の見間違えであったのなら、それでいい。だがもし、本当に子どもが遊んでいたのなら事だ。
屋根に登って影の正体を探してほしいのだが……頼めるか？

プレゼット：屋根の上で遊んでいた影のこと、なにかわかったか？
この杖は…… おそらく、東に住んでいるシルフ族のものだ。こちらの葉は、シルフ族の体から落ちたものだろう。
どうやら私は、ここへ遊びに来たシルフ族を人の子どもと見間違えたようだな。
この杖を「シルフの仮宿」に住んでいる「**デレシア**」というシルフ族に届けてくれないか？
きっと杖を失くして、困っているだろうからな。



デレシア：なにか、わたびにご用でふっち？
これは……シルフ族の杖でふっちね！ きっと、わたびの仲間が落っこちたのでふっち。
届けてくれて、すごくありがとなのでふっち！
あなた、親切なひとでふっち〜。まるでカヌ・工みたいなのでふっち。
これから仲良くちてほしいのでふっち！ 約束なのでふっち！

シルフ族のお守り

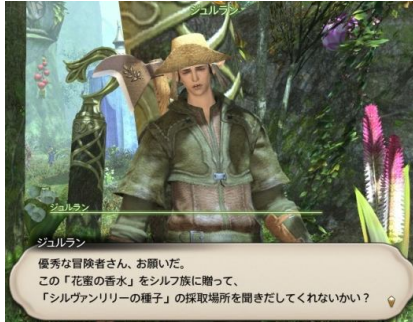
ノレクシア：あなたには、長老様を助けてもらったでふっち。あたちの仲間も、いっぱいお世話になったのでふっち。
何か、お礼したいでふっちけど……。
ちょうなのでふっち！ あなた、スウォーレン・チツガから「チツガの鮮血」を3つ、手に入れてくるでふっち！
「空っぽの瓶」をあげるのでふっち。スウォーレン・チツガをベチベチちて弱らせたら、
これを使って「チツガの鮮血」を手に入れるでふっち！

ノレクシア：スウォーレン・チツガ、ベチベチちてきたでふっち？
……えっと、これをこうちて…… 糸ができたら……組みあわちて……。
できたのでふっち！ あたち特製のお守りなのでふっち〜！
あなた、冒険者でふっち？ このお守りを身に着けてれば、怖い怖い飛んでくのでふっち！
感謝の気持ち、いっぱい込めたのでふっち。ぜひ、受け取ってほしいでふっち！



シルフ族と不思議な種

ジュルラン：僕は師匠に言われて「シルヴァンリリーの種子」を採りに来たんだ。だけど、採取できる場所がさっぱりわからなくてね。仕方ないから、シルフ族に訊いてみようと思ってさ。同僚のセレンに頼んで「花蜜の香水」を用意してもらったんだけど……。そもそも僕は、シルフ族と話すのが苦手なんだよ。だから、シルフ族と通じあえるような、優秀な冒険者さんもセレンに探してもらったのさ。優秀な冒険者さん、お願いだ。この「花蜜の香水」をシルフ族に贈って、「シルヴァンリリーの種子」の採取場所を聞きだしてくれないかい？それが終わったら……。種の採集もお願いしようかな。もし、手に入ったら「十二神大聖堂」にいる、「ケイン」師匠に渡してくれるとうれしい。頼んだよ！



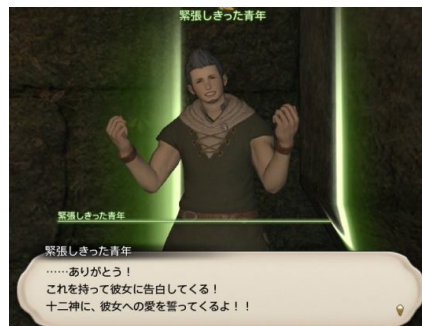
デレシア：向こうの園芸師のヒト……。ヘンなシルフ語を話すのでふっち。もっと勉強したほうがいいのでふっち！これは……。花蜜の香水でふっち！ステキな香り、すごくありがたなのでふっち！……。「シルヴァンリリーの種子」を採てるのでふっち？ラクスコールで、たまに落ちてるでふっちよ？でも、ラクスコールは、悪い子シルフがいっぱいいるのでふっち。行くなら、気をつけるでふっち！

ケイン：美しい……。あとは可憐な……。シルヴァンリリーさえあれば、すべてが完璧だ……。これは「シルヴァンリリーの種子」ではないか。どうして君が……。そうか、そういうことが。ジュルランめ、またサボりおったな。この種は、真っ白で可憐な花を咲かすのだ。十二神大聖堂の荘厳さを損なわず、控えめに調和した美を演出する……。どうだ、十二神大聖堂の植物は美しいだろう？この庭師である、僕の自慢の作品だからね。

愛を彩る花束

ケイン：ここの庭で仕事をしていたとき、彫金細工の修復に來た、彫金師と知り合ってね。それが今の僕の妻さ。ははは、十二神が導いた運命かもしれないね。この十二神大聖堂は、愛の聖地でもあるから。……。そういえば、さっき告白秒読みで感じの青年を見たな。勇気を後押しするのは、いつも小さなきかけだ。……。君、僕特製の「アーゼマロースの花束」をあの青年に渡してあげてくれないか。

緊張しきった青年：……。けけけ、けっこんちてくだちゃい！ううう、緊張する……。落ち着けー落ち着けー。い、いきなり何を……。？あれ、この花束……。いい香り、そしてきれいだ。こんな素敵なものををいただいていいのかい？……。ありがとう！これを持って彼女に告白してくる！十二神に、彼女への愛を誓ってくるよ！！



ケイン：ははは、うまくいったみたいだね。彼らがここで結婚式をするまでに、君に届けてもらった種を咲かせておかなければならないな！

祝福の花嵐

エルフレダ : あへん、十二神大聖堂って本当に素敵！ 私の友達がね、今度ここで結婚するの～！
だからね、私ね、準備のために下見に来たんだった♪
それでねそれでね、冒険者さんにお願いっ！ 「ウィンドスプライト」を倒して、
「ウィンドスプライトの核」を4つ、持ってきてくれないかな～？
……何に使うのかって？ えへへ～それはまだ、ヒ・ミ・ツ！ よろしくね～っ！

エルフレダ : 「ウィンドスプライトの核」を4つよ。オ・ネ・ガ・イ♪
あへん、ありがと～！ 実はね、これを使って、風を起こして…… フラワーシャワーを盛大に舞い散らせようと思ってるの！
ウフフフ、いい考えだと思わない？ あ～あ、私も準備なんかしてないで、早く幸せな結婚をしたいな～！

